

■令和4年度第2回鹿嶋市総合計画審議会 議事録

令和5年1月16日（月）14時00分～

鹿嶋市役所 3階 会議室 301・302

1. 開 会
2. あいさつ
3. 議事

○会長

本日は13名の委員のうち12名の委員にご出席いただき、1名は代理でのご参加です。協議会規則、第5条第3項の規定により、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。

まずは議事（1）「鹿嶋市まち・ひと・しごと創生総合戦略（2022年度版）の改訂について」の説明を事務局からお願いします。

○事務局

議題1の「総合戦略の改訂について」ご説明差し上げたいと思います。

まず、資料1についてご説明差し上げます。こちらは昨年11月、委員の皆様にご意見を伺い、その意見に対し、市の担当部署からの回答を加え、まとめたものとなっております。そして、議題1の総合戦略の改訂について記載させていただいておりますが、「1 総合戦略における修正指標についての承認可否」ということになってございます。指標の1つを削除、もう1つを変更する案をご提示し、おおむねご賛同を得られたものと思っております。

ただし、「学校における教職員の公開授業」については、その有用性についてご質問がございましたので、児童生徒の学力向上につながる効果的な手段である旨の回答をさせていただきます。

続きまして、資料2について、でございます。こちら、昨年11月の意見集約時にも送付させていただいておりますが、指標削除及び変更の説明資料でございます。今回は念のため参考資料として付け加えさせていただきました。ですので、説明のほうは割愛させていただきます。

次に、資料3ですが、改訂のほうをご承認いただきました場合の成果物案となっております。主な修正箇所としましては、7ページと8ページのそれぞれ下段の表のところを修正させていただきました。7ページのところは、「結婚活動支援事業」を削除させていただいております。8ページのほうでは「教職員指導対策費」について記載をさせていただきます。以前にお送りしましたものをまとめた資料となっておりますので説明については簡単に終わらせていただきたいと思います。

議題1についての説明は以上となります。ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

○会長

総合戦略に関して、2点改訂ということで、事前に皆様方にはお諮りしてご意見をいた

だいているということで、結論としましてはおおむねご承認いただいているというようなところでございます。これに関してご意見等がありましたらお願いします。

(意見なし)

○会長

よろしいでしょうか。それでは、最初の議事である総合戦略の改訂についてはお認めいただいたということにさせていただきます。次に、議事(2)に移ります。「第四次鹿嶋市総合計画の進捗について」事務局より説明をお願いします。

○事務局

議題2「総合計画の進捗状況について」説明させていただきます。

それでは資料1ですが、項目番号の2番「総合計画及び総合戦略の進捗に関するご意見・ご質問」のほうをご覧になっていただければと思います。

4名の委員の方からご意見をいただきまして、1ページ目だけではなく2ページ目のほう、裏のほうにも続いてございます。なお、匿名にする必要がないようにも思いますが、担当課から回答を得る際に使用したフォーマットを使っておりますことをご了承願えればと思います。

まず、お1人目の委員におかれましては、各指標達成のための根拠とその手法についてご質問をいただいております、担当課から回答させていただいております。この場では、特に最後の質問について、事務局の回答に触れさせていただければと思います。

一番下でございます、全般、施策指標の数値でご質問というところの部分でございます。事務局としましては、総合計画や総合戦略は、最終的に出来上がった成果物など印刷した形でしか見る機会がなかなかないのかなと思ってございまして、どちらかというと体系化された施策ですとか、事業が並んでいるだけのように見えてしまっているというところのかなと思っております。

これはどのような経過をたどって出来たかですとか、特にどのような論理展開、ロジックで組みあがってきたというところがなかなか分かりづらいということは事務局でも認識しているところでございますし、特に事業とか施策同士がどのように連携して、これからどのような展開をしていくのかなど、目的を達成していくのがなかなか分かりづらいいかなと思ってございます。

いただいたご意見につきましては、総合計画のような計画だけではなくて市役所全体でも同じようなことが言えるのではないかなと考えております。資料のほうにも書かせていただいたのですが、政策や事業の目的達成のための根拠や論理展開について「見える化」をしようと市役所の中で試みております。

市長の肝いりで「ロジックモデル」というツールを導入することといたしました。今月、主に管理職を対象とした研修を実施しております、60名以上が受講しているところでご

ざいます。具体的には、議題3の「今後の取組について」でご説明させていただきたいと思っておりますが、市役所の「見える化」をしようと思っております。

2 ページ目にうつりまして、2 人目の委員におかれましては、鹿嶋文化の振興、生活排水への対策、洋上風力発電事業への期待について、ご意見をいただきました。特に洋上風力発電事業については、市長も公言しておりますが、市の中長期的な稼ぎ頭の産業という風に位置付けておりまして、さらには、本市で次世代エネルギー拠点を形成することを目論んでおりまして、市としてもかなり力を入れていくというところがございます。

3 人目の委員におかれましては、「学校における教職員の授業公開」についてご質問をいただいておりますが、こちらは1のほうでもご回答させていただいておりますが、改めてその有用性についてご回答させていただいたというところがございます。

続きまして、4 人目の委員におかれましては、子育て支援、地域福祉の推進、効果的な市業務のあり方、地域に学ぶ機会の創出についてご意見をいただきました。それぞれの点については、担当より回答させていただいておりますが、魅力的な資源が地域に埋もれてしまっておりまして、総合計画、総合戦略でも生かし切れていないというのは、事務局としても認識しているところがございます。優先順位をつけなければ実行できないというところですが、できる限り、地域資源を活用してまいりたい、計画に位置付けて実施していきたいという風に思っているところがございます。

以上で資料2は概略ですが、市の意見として確認させていただいたところです。

続いて、資料4のほうでございますが、こちらも先ほど紹介しました資料2と同様、昨年11月にお送りした資料でございますが、昨年9月末時点での進捗状況となっております。1 ページ目が総合計画、2・3 ページ目が総合戦略となっておりますが、それぞれ簡単ではございますが、補足説明をさせていただければという風に思います。

まず1 ページ目の総合計画では、上から3 行目になります、「人口の社会増数」が令和3 年度に比較しまして、かなり落ち込んでいます。プラスだったものがマイナスに転じてしまっているというところがございますが、こちら9 月時点の数字ではございますが、10 月以降もその傾向は変わっておりません。今年度3 月末を見越した場合でも社会増というのは見込めない状況になってございます。

これまでの内訳を見ますと、以前よりも県外、特に千葉方面ですとか、いわゆる首都圏へ行く方が多くなっているというふうに分析しているところであります。ただ、細かく要因については調べ切れていないので、その要因を調べる手法を今検討しているというところがございます。ただし、それはあくまで詳細な分析のためであって、市としては、『人口増のためには、前提として魅力的な「しごと」と豊富な移住・定住支援が実施できる「まち」という条件を揃えよう』という認識でございまして、それを意思決定しているという風に思っております。

先ほども少し申し上げましたが、市長が主導して、中長期的には「次世代エネルギー拠点の整備」、短期的には「ふるさと納税の寄付額増」を目指しまして、あわせて「行財政

改革」を推進して、今申し上げましたような魅力的な仕事を揃えて豊富な移住定住支援が実施できるまちを作っていこうということで取り組み始めたところでございます。

そのほか、進捗状況の表の中に未計測という箇所もございます。こちらは、年度末までには計測して集計されることとなっております。

次に2ページ目をご覧ください。今回の総合戦略の改訂によりまして、変更となった箇所を赤字にしてございます。図書館運営経費の事業概要の記載につきましては、より分かりやすい表現にしたものとなっております。

なお、2ページ3ページにつきましても、今年度末にはすべての数値が記載されることとなっております。こちらの資料も一度お送りしたものでございますので、説明のほうは大まかなものにとどまらせていただきまして、私からの説明は以上となります。

○会長

はい、それでは委員の皆様方。ただいまの説明についての質問あるいは意見でも結構でございますので、よろしくお願ひしたいと思います。

(意見なし)

○会長

ふるさと納税は、やはり重要なのかなというところで位置付けていると、市長も肝いりということなのですが、それを支える職員の体制というのも非常に重要になるかと思えます。例えば、茨城県だと境町が有名ですけども、そこは課を専任でつくって、なおかつ2人という形で職員を配置しているということで、それくらいやって、なおかつ内閣府にも足繁く通うなかで、ふるさと納税というものを増やしていった。また、トップセールスというのも非常に重要なのだという話は先月ヒアリングに行ってお話を聞いてまいったところです。その情報も踏まえたうえで、増やすのは良いのですが、市長はそれを到達するために「見える化」を図り、職員にも徹底をさせるというような説明もありましたが、ふるさと納税を稼げる自治体ということで、どのような形で「見える化」していくのか、実現していくのか、何か具体的な考えが現在あるようでしたらお聞かせいただければと思います。いかがでしょうか。

○総務部長

はい、ご意見ありがとうございます。ふるさと納税につきましては、行政組織の改編に伴いまして、新年度から「ふるさと納税戦略室」ということで新たな部署を設置するところでございます。新たな部署を経済振興部内に設置するところでございますが、室長には次長級の職員を配置するとともに、課長級、そのほか一般職2人くらい配置して、ふるさと納税を3・4人で対応するというような形で考えているところでございます。

○会長

はい、よく分かりました。ありがとうございます。委員の皆様方、なんでも結構でございますので、いろいろとご意見いただければと思うのですがいかがでしょうか。

○委員

ふるさと納税ですけども、鹿嶋市の体制を整えるということがありました。市役所のみなさんの職員の方の発想を超えてですね、色々な発想を入れて、世間一般からの注目を集めて、寄付を募ろう。という新しいアイデアみたいなものも大事かなと思います。そこを何か考えていらっしゃるものはあるのでしょうか。

○政策企画部次長

来年度4月から先ほど総務部長も申し上げた通り、まず専門の部署を作ります。そのほか、専門のコーディネーターの方をお願いいたしまして、金額の増に繋げていきたいと考えております。そのなかでは、委員ご指摘のとおり、新たな発想での商品というか返礼品が必要になってまいります。そのなかで、コーディネーターの方を中心に新たな発想を入れた中での返礼品を数多く揃えるというところが、いま準備段階でありまして、ワーキングチームを作って、取組んでいるところです。ご指摘のとおり、市民の皆様からのアイデア、それから各事業者の皆様、商店の皆様からの新たな返礼品の出品の申込というところが一番のポイントになってくると思いますので、市民の皆様の声プラス、一番重要だと思っているのは事業者の皆様の本気度、鹿嶋のふるさと納税に出品して、市の納税額も増えますけど、地域の振興、自分の事業拡大というところも含めてPRして事業拡大していきたいというふうに考えております。以上です。

○会長

もちろん、市の職員の頑張りというのは非常に重要というのは重々認識しているところですが、一方でトップセールスも非常に大切であって、例えば境町の話もありましたけど、企業版ふるさと納税ということで、よく知恵を絞りながらトップセールスをして、物納だとかそういったところで色々と動いておられるということで、それこそなかなか鹿嶋市から離れられないということもあろうかと思いますが、そういった工夫もあろうかと思えます。当然、民間の事業者の本気というご発言もあったのですが、やはり「市でできることは一体何なのか。」「トップでできることは何なのか」ということもぜひ考えていただきながら、推進していただければ幸いです。どうぞよろしく願いいたします。

他にいかがでしょうか。ふるさと納税でも結構ですし、それ以外の視点あるいは何かアイデアがございましたら、ぜひお願いできればと思います。

○委員

ふるさと納税絡みで、企業版ふるさと納税、そこでの現物出資と言いますか、例えば人

的コストですね、私ども、金融を担っておりますので、行政のみなさんと新しいものを作り出していくとかですね、弊行で持っている経営資源を鹿嶋市さんのほうに提供して、何かお役に立てることができないか。逆に鹿嶋市様サイドから金融機関に対して要望とかそういうところをぜひ寄せていただければと思っています。私個人的には鹿島支店長として鹿嶋市に来ることができ、大変誇りに思っておりますし、できる限り、鹿嶋の未来に向けて弊行グループの経営資源をできるだけ有意に投下してお役に立てればと考えておりますので、ぜひご要望等寄せていただければと思います。

○会長

ありがとうございます。これに対して、事務局からお願いいたします。

○事務局

はい、ふるさと納税個人のものについてはなじみの方も多いと思いますが、企業版ふるさと納税というものもございます。ただ、一つ条件があるのが市に本店がないと言いますか、主な事業所がない市外の企業の方からの寄付を受けた場合、企業の方もメリットがある制度でございます。金額によるものもあるのですが、人材を市のほうに一定期間来ていただいて、一緒に仕事をしていただく。というのも企業版ふるさと納税でございまして、私どもとしましてもそこも模索しているところでございます。

模索している中でももちろん総計審の委員の皆様のところも特に一緒に協議させていただいて、市の発展にご協力いただけるようなスキームと一緒に考えさせていただければというふうに考えておりますので、今後ご相談させていただくことになろうかと思っております。よろしくお願いいたします。

○委員

総合戦略事業一覧のところ、風力発電の関係でビジョンを12月に決定予定とあるのですが、この進捗はいかがなものか教えていただければと思います。

○経済振興部長

ビジョンにつきましては、12月に策定いたしまして、ホームページ等でご紹介するとともに、ご協力いただきました団体、地元の区長さんに概要版をお配りいたしました。

まず、洋上風力の基地港が鹿嶋市にできて、それが今後鹿嶋において、どのような展望が開けるであろうかとそういったものを認識していただくことに取り掛かろうとしているところでございます。

実際には令和5年度から具体的な事業に取り掛かることとなりますが、今年度につきましては、既に事業に着手すると決定している事業者さんから、実施していくにあたりましてどのような事業マッチングができるかといった事業所絡みの説明会を3月に行わせていただこうと今調整をしているところでございます。これにつきましても、関係機関等と調

整のうえ、皆様に周知させていただけることがございましたら、その都度ご案内させていただきます。多くの方からご意見を頂戴しながら進めていきたいと考えております。以上でございます。

○委員

新規の採用、就職関係に繋がってくるのではないかと思いますので、今後の発展にはかなり良い取組みなのかなと思いますので、是非とも教えていただければと思います。よろしくお願ひしたいと思います。以上です。

○副市長

ただいまのご質問に対しまして、追加でご答弁を申し上げたいと思います。昨年末、洋上風力発電推進事業のビジョンが策定されたところでございます。まだ策定されて日も浅いというところでございますので、具体的な事業の進捗には至っていないのですが、その中でも先ほど担当部長のほうからありました、既に銚子沖で決定してございます発電事業者と鹿嶋市内の業者とのビジネスマッチングをなんとか年度内に行いたいと準備しているほか、鹿嶋沖に NEDO が管轄しますグリーンイノベーション基金を活用して、浮体式洋上風力発電の実証実験、これをエントリーすべく現在準備を進めているところでございます。具体的な申請主体につきましては茨城県ということにはなっておりますが、茨城県との連携も密に行いながら、できますれば今年度中にエントリーすべく調整している段階でございます。この実証実験が上手くいけば、今後本格化され、鹿嶋沖に浮体式の洋上ファームが建設されることとなります。そうなった暁には、地元の鹿島臨海工業地帯一帯にクリーンな電力の供給をしてまいりたいという風に考えてございます。現在までの進捗状況は以上となっております。ありがとうございます。

○会長

他にいかがでしょうか。ぜひ忌憚のない意見・アイデア等ございましたらお願いいたします。

(意見なし)

また何かございましたら、その都度ご発言いただければと思います。

それでは、議事2については特に異議はございませんでしたので、認められたということを進めさせていただければと思います。ありがとうございます。

それでは、議事3「今後の取組について」の説明を事務局よりお願いいたします。

○事務局

議題3「今後の取組について」でございますが、まずは資料5をご覧ください。資料は紙でA4刷りの両面版になっています。

こちらのフロー図は、先ほどご説明をした中で出てきました「ロジックモデル」というツールの代表的なフォーマットでございまして、政策や事業目的達成のための根拠や論理展開について「見える化」するために使うツールとなっております。簡単にご説明いたしますと、左側から右側に時間が流れてございまして、市で、ある事業を実施しますと、最終的には市が目指した状態になっているのではないか？ということをもとめたものとなっております。先ほど管理職が研修をしていると申しましたが、こういったものを適切に作れるようになるために、いま研修を行ってございまして。ロジックモデルを使うとどんな効用があるかということ、下段のほうに4つほどまとめさせていただいております。

1点目が「政策形成能力の養成」でありまして、ロジックモデルを作るプロセスというのが大事になってきます。現在管理職がこの研修を受けているものですが、今後は、この考える時間をいかに確保していくかが、市のほうもいろいろな仕事を掛け持ちしながらやっていますので、考える時間もしっかりとっていこうということでいま取り組みを始めているところでございます。

2点目の「適切な成果指標の導出」ですが、民間の方では当たり前かもしれませんが、事業の実績なのか成果なのか混乱することがよくあります。また、欲しいデータがなかなかすぐに手に入らないということもあって、適切に設定するということがなかなか難しい、委員の方からも成果指標で適切なものがないのではないかという趣旨の意見もありましたが、その部分がなかなか難しいと考えております。ポイントを間違えてしまうと最終的に望んだ姿に結びつかないということになってございまして、しっかりと設定していくことでございまして。

3点目は「事業の有効性評価」でございまして。ここでのポイントは有効性を評価するという点であります。このロジックモデルはあくまでも仮説でございまして、必ずしも最終成果が望んだ形にはならないということもございまして。どこが問題にあるのか、要因分析をしっかりとしないといけないということもございまして、作ったら終わりということではないということもございまして。PDCA というワードは、よく耳にすると思いますが、チェックすることが大事ということは全く同じことです。

最後に4点目が「コミュニケーションツール」としても有効と考えております。

こちらの考え方を基に、あくまでも案ということもございまして、裏面のほうに「人口の社会増」の最終成果を達成するためにどうすればいいかというものをロジックモデルで作成してみたというところでございまして。これはあくまでも案ですので、今後詰めていくこととなりますが、委員の方から意見がございました、市の考え方がブラックボックスになっているところを「見える化」しようとしたところでございまして。1ページ目のほうは単線で一つのフローで終わっていましたが、実際は複数の実績や成果が絡み合っていて、最終成果となっていくことを示させていただいております。

本日はロジックモデルの概要をご説明させていただきましたが、今後はロジックモデルという共通のツールで、委員の皆様をはじめ、市民、事業者の方々と対話していきたいと考えております。

なお、総合戦略に掲げている事業につきましては、今後作成をしていく予定でございますが、いつまでにどの程度というのははっきりしておらず、現在検討しているところでございます。いまはっきりとは申し上げられませんが、作成に向け準備していると、そのための研修をしているというところでございます。

続きまして、資料6でございますが、昨年10月に開かれましたデジタル田園都市国家構想交付金に関する国の説明会資料となっております。ただ、こちらの交付金の名称が長いので、通称の「デジ田」と使わせていただければと思います。

本市でもこのデジ田を活用したいと考えておまして、総合戦略事業に位置付けました「オンライン関係人口創出事業」に充てたいと考えてございます。資料のほうが少し戻ってしまうのですが、進捗管理表の2枚目、総合戦略のほうになります。上から4行目のオンライン関係人口という指標をどんどん上げていきたいということで、いま考えておまして、そちらにこの交付金を活用していきたいと考えてございます。

そして、その申請の素案としてまとめたものが、資料7でございます。6は制度の説明、7のほうはデジ田の申請書という形になってございます。なぜ今回議題に取り上げさせていただいたかと言いますと、デジ田の採択を受ける場合には、進捗・評価を行っていただく会議体が必須でございまして、その会議体の役割を本審議会のほうに役割を担っていただければということで議題に取り上げさせていただきました。

資料はないのですが、そもそも「デジタル田園都市国家構想とは？」というところですが、皆様もよく耳にしていると思うのですが「スマートシティ」ですとか、「Society5.0」ですとかデジタルを使って社会を豊かにしましょうというキーワードをよく耳にするかと思えます。この言葉もその一つでございまして、デジタル庁のホームページを見ますと、「心豊かな暮らし（Well-Being）と持続可能な環境・社会・経済（Sustainability）を実現していく構想」と掲載されております。地方と都市がそれぞれの特性を生かしたまま、持続していくということで、地方創生の1つの考え方でもあるということでございます。

今回、改訂のご承認いただきました総合戦略もデジタルを活用して「Well-Being」や「Sustainability」の実現を目指しております。オンライン関係人口がその一つかなと考えておまして、それに力を入れたいというところでございます。

では、資料6の説明に入らせていただきます。資料3枚目になります。デジ田の概要について記載しております。今回市が申請したいと考えておりますのが、赤囲みのデジタル田園都市国家構想交付金です。これを活用したいと考えてございます。

そのまま下段のほうに目をやりますと、その中で2つに分かれて書いてございます。本市は赤囲みのデジタル実装タイプのほうを考えているところでございます。ここのデジタル実装タイプというものをもう少し書いてあるのが、次のページです。4枚目のほうの、スライド番号8になります。こちらの緑色のところになるのですが、「タイプ1」というところでございます。こちらは使いやすいタイプになってございまして、補助率は1/2となっております。先進的な取組ではなく、横展開という自治体間で融通し合えるような事

業をやるときに「タイプ1」を活用できるというところになってございます。こちらのほうを使いたいという風に考えてございます。

続きまして、資料7をご覧ください。資料1枚目のところに、市が現在参加しているオンラインコミュニティの紹介をさせていただいております。委員の皆様や各団体の皆様にもぜひ参加していただきたいのでQRのほうを貼らせていただきました。

市外の方、特に鹿嶋市を認知していない方と、どうやって繋がれるかということでオンラインコミュニティに参加しまして、このオンラインコミュニティには現在23,000人の方に参加いただいております。必ずしもアクセス頻度が高いというわけではなく、会員登録してもらっているという表現がいいのかと思いますが、そういった方々に情報が発信できる状況でございます。ただ、関係人口としてまで強い結びつきには至っていないため、そこを改善して、移住・定住の足がかりといたし、今回申請するものでございます。

資料6も含めてですが、デジ田についてかなり説明を省略させていただきました。なぜこれだけ多くの資料を出ささせていただきましたかということ、他の先進自治体の例もございまして、参考までにとということをつけさせていただきました。本市としましても今回の申請のみならず、こちらの交付金のほうを活用したいというふうに考えております。私からの説明は以上となります。

○会長

はい、2点ございました、今後の取組ということで、実現に至るまでの道筋を描いたロジックモデルを導入、そして、デジタル田園都市国家構想交付金を活用していくということでのお話がございました。これに関してのご意見等いただけましたらお願いいたします。

ロジックモデルは、他の自治体も大変注目をしているところではありまして、ある自治体は同じことをやろうと思っているが、そもそもうちの自治体でこれができるのだろうかということ苦勞しているということがあります。

まずこれを十分に、初めてのこともあるので理解するということが大変になるかと思っております。さらに、例えば中間成果のところ「魅力あるまちづくりの施策の検討・実施」あるいは「ふるさと納税の増加」とうところがありますが、この2つのテーマだけでロジックモデルをつくるということもあろうかと思っておりますし、最初のことなのでいろいろ苦勞もあるかと思っておりますが、今まで見えなかったものを「見える化」しようという、取組自体は素晴らしいということだという風に見ているところです。委員の皆様方で民間企業の方もいらっしゃると思っておりますので、ご意見や違和感などそういったところも含めてご意見いただければと思います。いかがでしょうか。ロジックモデルに関わらず、デジタル田園都市国家構想交付金の話でも結構です。

○委員

デジタル田園都市のところ、説明があったかもしれませんが、具体的にどういう施策みたいなものを考えていらっしゃるのでしょうか。お示しいただいたコミュニティを充実

させるためのシステム投資をしていくということでしょうか。

○事務局

今回の申請に関してはあくまでも単独の事業についての補助を取らせていただきたいと思っております、それがオンライン関係人口創出事業というところで、資料7に書かせていただいたこのコミュニティをさらに強力なコミュニケーションツールとして実装するために、この交付金のほうを活用していきたいという風に思っております、今回申請するものでございます。

○委員

先進的な自治体ってこういったコミュニティがかなり進んでいるということだと思うのですが、「鹿嶋市との違い」はどういった点が具体的にあるのでしょうか。

○事務局

資料7の左側のほうにロゴが見えると思います。参加中のサークルと書いてありますが、そこに鹿嶋市のマークがあるのが分かりますでしょうか。他は全て民間企業のマークでして、自治体でこういったコミュニティをしているのはなかなか他にはないかなと考えております。LINEを活用して等ではありますが、こういった認知されていない自治体に人を呼び込んでくるようなシステムを取り入れている自治体というのはなかなかないかなと思っております。入ってきてくださった方と関係性を強く結びつけていくためのインセンティブがあるような仕組みを取り入れておまして、そういった取り組みが入っている仕組みづくりをしているところも少ないのかなという風に考えてございます。ですので、なじみがあるような関係性まで深めるような仕組みを更に作っていきたいということで、今回申請しようとしているところでございます。

○委員

私、清真学園で「地域課題を考える」というものの講師でやっております、学生には鹿嶋市の魅力をどうアピールしていくか、SNSで発信していく発信の仕方みたいなものを提案してくれて言っているのです、それが出てきたら、こういったことに繋がっていく、コラボレーションできるのではないかと思います。

○会長

はい、貴重な意見ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○委員

今参加中のサークルいっぱいありますよね。この方々とこのコミュニティの中でいろいろなお話がされていて、そういうのを活発化するための交付金をいただいて、これをもつ

とどんどん活動を活発化させていくことなんですよね。一般市民はこういうのがよく分からなくて、それでそのあとわたしたち鹿嶋市民はどういう影響がもたらされるのかなとか、何が話されているんだろうとか、どういう方向にそこから可能性が生まれていくんだろうとか、そういうことを知る機会というのはどういう風に出てくるのかなというところが分からなくて。誰に聞けばいいのかとってしまいました。

○事務局

それでは、ロジックモデルのほうをご覧ください。裏面の一番上のところです。多様な暮らし方支援（1）多様なライフスタイルを応援するということです。考え方をちょっと整理させていただければと思います。あくまで今の案という段階ということでご承知おき頂ければと思います。

このオンラインコミュニティを運営するところで、これは市が色々な人を連れてくるということではなくて、自然とここに入ってくるような仕組みということです。鹿嶋市を知らない方々とコミュニケーションができる場を設けられるということになっています。

そうしますと一番上のところで、「双方向でのコミュニケーション」で企業の方が別にコミュニティを持ってやっていると。そこに、消費者の意見を聞きながら商品開発に結びつけているとかは別のコミュニティでやっています。鹿嶋市もそういったコミュニティを作っています。市のことを意見で聞いたりとか、こんなふるさと納税の商品があったら買ってくれるのではないかとオンラインの中で市の問いかけに答えていただいたり、ここのコミュニティの中で鹿嶋市はこんなところだから見に来たほうが良いよ、こんな素敵な場所がありますよという会話がなされているということになります。

こういった話をさせていただくと、ここには書いていないんですが、鹿嶋市に馴染みができてくるだろうと、そしたら鹿嶋市に来てくれることになるだろう、鹿嶋市に来ようになったらもしかしたら移住定住なんかに興味を持ってくれるのではないかとというような仮説のもと、まずはこのコミュニティを作って、このコミュニティを親しみのあるツールとして作って行って、このなかで活発な意見ですとか、鹿嶋市に馴染みを作っていこうじゃないかというような取り組みをしていきたいと考えているところでございます。あくまでもネット上で行うか人づてでやるかの違いということになってございます。

○委員

世の中がどんどんそういう方向に進んでいくためにいま準備にという形で取り入れていったほうが良いということですよ。知り得る機会っていうのが難しいと思う方もいらっしゃるって、それが良い方向にいっていればこういうものが結果として出たんだとなっていて、それまでのプロセスをそこまで知らなくても特に問題はないのかなと思うんですけど、こういうふうに進んでいく方向とそこに入れない人との間がそれに結びつくように良いと思います。

○会長

ぜひ、ご配慮のほうをいただければと思います。

○事務局

はい、実際の結びつきのところも市民の方にご理解していただいてご周知いただいで一緒にご活用いただければというのは私どもも望んでいるところでございまして、それについてはさらに周知のほうをさせていただければと思っております。

ちなみに、このコミュニティをきっかけで、ふるさと納税をしていただくこともありまして、令和3年に関しては11月から始めたんですが、21万円ほど。令和4年中に関しましては、160万円ほどこれをきっかけにふるさと納税をしていただきました。さらにそういったきっかけづくりをこの場で作っていきなというふうに考えてございます。

○会長

他にいかがでしょうか。ぜひ高みを目指して頑張っていただければと思いますので、よろしく願いいたします。また、魅力あるまちづくりの施策検討・実施についてはどういう方法で検討するのかというのも今後見ていくということもありますし、うちの大学だったらアメリカの共和党とかで政策を検討する際にコンジョイント分析をやっているものもありまして、それをこう政策に結び付けていくというようなお手伝いもしていますので、うちの大学でもできることがあれば仰っていただければと思いますので何卒よろしく願いいたします。他にいかがでしょうか。

(意見なし)

よろしいでしょうか。では、ご意見がございませんのでロジックモデルについてはご理解・ご了承いただいたということで、田園都市国家構想に関しても今後具体的なものに関しては「カシマカラフルベース」というような名称で新たなコミュニティというものを作っていくというようなことでのお話がありました。これに関しても意見いただきましてありがとうございます。方向性に関しては特にご異議というものはございませんでしたので、進めていっていただければと思います。

では、議題に関しては、その他ということに関してですが、委員の皆様、なにかございますでしょうか。

○委員

～マルシェの告知・その他～

○経済振興部長

～配布した洋上風力発電事業推進ビジョンの内容説明～

○会長

ありがとうございました。それでは議題は以上となります。以降については事務局にお願いいたします。

○政策企画部次長

会長，長時間にわたりまして議事進行ありがとうございました。それでは次第に則りまして閉会となります。

総合計画審議会ですが，令和４年度につきましては，今回をもちまして終了ということになりますが，来年度以降も開催してまいります。次回は７月頃を予定しておりますので，またご連絡させていただきます。よろしくお願いいたします。

それでは以上をもちまして，令和４年度第２回鹿嶋市総合計画審議会を閉会とさせていただきます。誠にありがとうございました。